

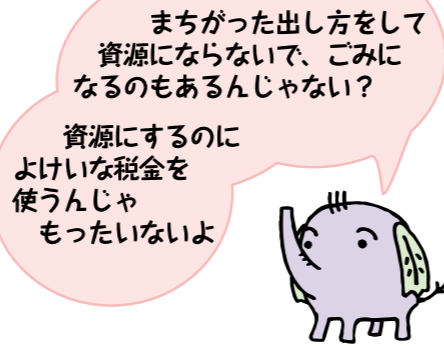
あぁ もっと減らそう！もっと減らせる！（Ⅱ）—— 個人の努力編  
 もったいない、せっかく資源として出しているのに……

戸別収集・有料化でゴミの量は  
**平成16年度 14.3%減**  
 (15年度比)

1人1日当たりゴミ排出量893g  
 平成17年度も1人1日当たり  
 のゴミ排出量は893gでした。



これ以上ゴミを減らすのは  
 たいへんだよ～  
 一人ひとりゴミを減らす  
 努力をしているからね



まちがった出し方をして  
 資源にならないで、ゴミに  
 なるのもあるんじゃない？  
 資源にするのに  
 よけいな税金を  
 使うんじゃ  
 もったいないよ

資源の出し方 西秋川衛生組合（高尾清掃センター）からのお願い		
種類	チェック	★理由
<b>缶・金属</b> 	缶はつぶさないで 	★プレス処理過程で不都合
<b>びん</b> 	缶は中身を出しきれいに洗う 中身を出してきれいに洗う <b>キャップはとる</b> (ドリンク剤はキャップ付が多い)	★容器の金属やガラス以外の不純物が資源化の妨げになる。また、悪臭を発生させたり夏には蜂に刺される事故もある。 ★手作業で取っているので手間がかかり、人件費も多くなる
<b>ペットボトル</b> 	<b>キャップはとる</b> <b>ラベルはとらない</b> [ あきる野市の拠点回収以外は持込先のルールに従って下さい ] 中身は出してきれいに	★キャップを手作業でとっているのでプレスにかけるまでに時間と手間がかかる ★ラベルについている  の識別マークを確認している ★中身が残っていたり、汚れていると燃やせないゴミに回される
<b>紙類</b> 	4分類（新聞紙・雑誌類・ダンボール・紙パック）を徹底する ファイル・ノートなどについている大きめの金属類やプラスチックはとる（ホッチキスはできるだけとる） 感熱紙、感圧紙、カーボン紙は燃やせるゴミへ ダンボールにボール紙は入れない	★資源化する過程で異物混入となる ★製紙段階で黒い点が出てしまい、不良品となる ダンボールの断面は  ボール紙は雑誌類
<b>布類</b> 	レースカーテン・靴・バック・ぬいぐるみは出さない ふとん・羽毛ふとん・毛布は出さない	★資源にならない 燃やせないゴミや粗大ゴミにだす

市民が間違った出し方で資源を出すとそのままでは資源として使えないので、清掃センターでは、無駄な手作業が必要となります。キャップを取って洗って出すという簡単なことを徹底することで、人件費を節約でき、ゴミも減らせるなんて！今すぐ始めましょう!!  
 M.O.



編集後記

月見草は夜7時頃花開く。五日市の友人に教えてもらい見に行った。目の前で数秒のうちに花開いてゆく。すばらしい自然の舞台ショー。昔はどこにでもあった月見草の群生も環境の変化で珍しくなった。そんな自然を大切に思う気持ちが「もったいない」気持の生活ともなり、生ゴミや給食残菜も随分減ってゆくことだろう。  
 M.T.

# へらすぞう

第6号 2006年8月

げん人くん  
 へらすゾウ

あきる野ごみ会議は、市民・事業者・市の3者が協力して活動している団体です。

高校生も参加  
**第二回レジ袋削減キャンペーン実施**

本年3月実施したレジ袋削減キャンペーンに続いて第2回目のキャンペーンを6月6日・13日に市内大手スーパー7店において実施しました。  
 今回はテスト的に、ある店舗で「マイバック持参率」を調べたところ、約25%と予想以上の高率で市民の意識の高さを感じました。

キャンペーン（第2弾）のねらい

- ①若い人たち（22名の高校生）にも意義を理解して参加してもらう
  - ②より多くの店舗（五日市地区を含む7店舗）で一斉に実施、より啓蒙効果をたかめる
- 協力していただいた都立秋留台高校1年生の感想の一部を紹介します。



僕たちに「ありがとう」と言ってくれる人もいました。とてもうれしかったです。たとえ得がなくても、人々に「ありがとう」と言われる。やりがいがあった。

私が思っていた以上に、みんなが自分の家から袋を持って来たりしていました。

最初は恥かしくてなかなか声が出せなかった。でも30分くらいしたらちゃんと渡せるようになってうれしかった。渡す時のことばとか考えるのは大変だった。

私はスーパーやコンビニでいっぱい袋を使ってしまおうので、今後はなるべく使わないよう心がけたい。

（チラシを）さし出した時に受けとってくれたうれしさや、受けとってくれなかった時の悲しさやくやしさを、色々ありました。

奉仕活動は自分の将来にそなえること以外にも、他の人々を笑顔にすることができるのでとてもいい

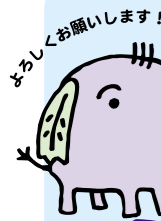
私は一回目の時はチラシを2枚しか配れませんでした。それも2枚の内1枚は担任の〇〇先生でした。悲しい…（笑）

暑くて大変だったけど、チラシの中身を読んで、レジ袋ってお金がかかってんだなーって思った。

二回目、とても暑く、とても大変でしたが、これでレジ袋を使う人が減ってくればいいと思いました。

ボランティアはとても大変だったけど、終わった後はとても良い気分になった。これからもこういう活動をやっていきたい。

やっぱりボランティアってすばらしいナ、と心から思いました。



# 出前講座

## ダンボール方式の波 湧きあがる!! — 札幌方式生ごみ減量法 —

ごみ会議のメンバーが段ボールを使って、家庭で簡単に生ごみを減量できる、札幌方式の出前講座を行っています。



戸倉の個人宅の庭で

4/26(水)午前、あきる野市議会議員田中千代子氏の呼びかけで、戸倉の個人宅の庭に11人の女性が集まり、人数分のダンボール・ピートモス・もみ殻くん炭などを用意して私たち(ごみ会議の三人)を待っていてくれました。一人ひとりが実際に自分でダンボールを組み立て、床を作り、生ごみを投入してもらいながらの説明。質問が飛びかい、笑い声のたえない、にぎやかで楽しいひと時でした。各人ダンボール箱を抱えて、ウキウキと(?)家路につきました。

5/24(水)夜の8時半から上引田会館において、コスモス会の人たち14人の参加で札幌方式の講習会を行ないました。ふだんの活動のあと、時間をさいて私たちの話を聞いてもらいました。あいにくの悪天候でふだんの半数の参加だそうですが、活発な質問や意見があり、充実した一時間でした。廃棄物減量等推進審議会委員の佐藤さんの仲介でした。



上引田会館にて

札幌方式生ごみ減量法とは札幌市の市民団体が考案し、札幌市が取上げ普及に努めています。

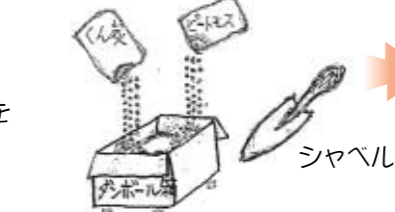
### やり方

底が抜けないように、もう一枚ダンボールを底に敷いて補強する



1 ダンボール箱を用意する。多量の水分(水蒸気)が発生するので、周りの通気性を良くする。(特に底に注意)

ピートモス くん炭



2 園芸用ピートモス(15L)ともみ殻くん炭(10L)を入れる。

三角コーナー



3 生ごみを入れ。1日1回毎日よくかきまぜる

4 生ごみの投入をやめ時々かかはんする。1~2週間後、土と混ぜ、さらに1~2ヶ月置くと堆肥になる



ダンボール方式は6ヶ月で1箱分の土しかできないので堆肥を作ることを目的とした場合、効率のよい方式ではありません。あくまで家庭から出る生ごみの減量が主目的の方式です。

あきる野市のいたる所からダンボール方式の波が広がることを期待しています。



問合せ先：環境課 t e l 5 5 8 - 1 8 4 2



# 学校給食を考える

私たちは公共施設(市立小・中学校)から出る給食残菜(「生ごみ」なる!!)の多さ(年間約70トン=残菜率約2~3割)に注目し、プロジェクトテーマに取り上げました。残菜ごみは水分を多く含むので、重量が増し運送費が増大し、焼却に時間がかかり、光熱費などに無駄が生じてきます。そして本当の目的「楽しい給食にする」ため、関係者を訪ねて、それぞれの思いを聞いてみました。

## 給食関係者を訪ねて

学校でも力を入れますが、家庭での食育が、基本だと思います



教育委員長 教育長

食べ物に感謝の気持ちを持ってもらいたいナ

子供たちに気を配っているのので私たちの食べる時間はあまりありません

残らないように子どもの食欲に合わせおかわりを配ります

残菜がたくさん戻ってくると悲しいナア

地元の食材もできるだけ入れたいです

色々なメニューを考えています

夜更かしして朝食べられないので、給食があると助かるわ。あら、私の責任かしら?

学校給食に頼らず、家庭の食事をたいせつにしたいわね

一食235円(小学生)で、きちんとした食事がいただけるのはありがたいわ



家庭(保護者)

毎回2~3割残菜ができるなら、初めから1割ぐらい減らして作れないかしら

おにぎりだけの給食なんてのも体験できるといいね。この飽食の時代に

行政も学校も私たちの働きかけで、残菜を減らす努力を一層してくれるのがうれしいわ

捨てないで何か再利用できないのかな。未開封牛乳をあけて捨てるなんてもったいない!!

給食センター(栄養士、調理師)

弁当でも給食でも選べるシステムにしてほしいわ



ごみ会議メンバー

「ごみは宝」循環



学校(先生)

飢えのことや食べ物大切さを子ども達に伝えています

できるだけ旬のものを使うようにしています

## 楽しい 小宮小学校 学校給食風景



「合同給食になってにぎやかで楽しいです」

開校132年の小宮小学校は児童数29名、養沢川と山々に囲まれた素晴らしい環境の中、校長先生中心に、すてきな音楽で給食は始まります。空教室を食堂にして、低学年と高学年に分かれ、大きなテーブルで(机を寄せて作った)先生も生徒と並んで食べます。

先生が子供の顔をみながら食べる給食は、ほとんど残菜はありません。養沢川に親しんだ地元の方たちの協力を得て、学校では「命を大切に」という教育方針のもと、山女の稚魚から成魚まで育てています。自然に抱かれ、いい環境、学校、先生、保護者が一つになって子供たちを育てています。

給食が終わると歯磨きタイムです。マイ歯ブラシで磨いて「はい 給食は終わりです。」

